

令和5年度 鹿児島県の実組の経過と今後の予定

鹿児島県特別支援教育研究会

会 長 喜 岡 達 也

1 研修・研究活動の計画

期日	活動名
令和5年8月3日(木)4日(金)	夏季研修会
令和5年10月27日(金)	県特別支援教育研究大会 川辺大会
令和6年1月5日(金)	冬季研修会

2 活動の概要

(1) 夏季研修会

講師	野村 真一 先生(関西学院初等部) 松久 眞実 先生(桃山学院大学教授) 川上 康則 先生(東京都杉並区立済美養護学校主任教諭)	参加人数	1500名
実施形式	1 集合研修 2 リモート研修 3 その他(資料配布等)		
演題	「曖昧ではない国語～授業UDを意識して～」(野村 真一 先生) 「ADHD・ASDの併存事例」「対応の困難な保護者への対応と支援」(松久 眞実 先生) 「確かな子ども理解と、豊かな関わり」(川上 康則 先生)		
概要	2日間の研修を通し、子どもの自己選択・自己決定を尊重する支援の在り方やユニバーサルデザインの基本的な考えと実践などについて学ぶ機会となった。講義はリモート形式であったが、チャット機能等を活用し、双方向のやり取りを通し、情報共有しながら研修を深めることができた。		

(2) 県特別支援教育研究大会 川辺大会

講師	釘田 雅司先生(鹿児島純心大学教授)	参加人数	175名
実施形式	1 集合研修 2 リモート研修 3 その他(資料配布等)		
演題	「子ども一人一人の学びを支え、学びの連続性を目指す授業づくり」		
概要	各校の特色ある日々の取組や授業実践について、分科会を通して情報交換することができた。中学校特別支援学級の分科会では、進路指導に係る関係機関との連携について、各校の現状を語り合うことができた。互いに特別支援教育に関する理解を深めるよい機会となった。		

(3) 冬季研修会

講師	阿久根 剛 先生(発達支援相談所「ゆらいばな」代表) 新村 英昭 先生(阿久根市教育委員会 主幹兼指導係長兼指導主事)	参加人数	250名
実施形式	1 集合研修 2 リモート研修 3 その他(資料配布等)		
演題	「複数の学級にまたがる特別支援学級の教科指導の在り方について」阿久根 剛 先生 「特別支援教育における持続可能な自立活動の在り方について」 新村 英昭 先生		
概要	講師の阿久根先生からは、支援する側が持続的に行うことができる支援や自立活動の在り方についてご講話いただく。新村先生からは、複数の学年の児童が在籍する特別支援学級を想定した教科指導の在り方についてご講話いただく。		

3 今年度の成果と課題

(1) 今年度の成果

- ・ リモート研修を積極的に導入することにより, 多くの参加者が参加することができた。
- ・ LINE WORKS 上で事務局員同士の連携を図ることで, 効率的かつ円滑な運営に努めることができた。
- ・ 大会への申し込み手段として Google フォームを導入することで, 参加者の情報を効率的に集計することができた。
- ・ ホームページで大会の情報を発信したり参加の呼び掛けを行ったりすることで, 多くの参加者を募ることができた。

(2) 今後の課題

- ・ リモート研修時の不具合の対応
- オンライン参加者が多く, 今後も増えることが予想される。リモート研修の確実な実施のために, 業者に委託することも検討している。